

川越高等学校の学科改編について

1 改編の趣旨

- 学校の特色化・魅力化を図るとともに、生徒が学ぶ意欲や学問への興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるよう、新たな学びへの転換を図る必要がありました。
- 国の普通科改革に伴う学校教育法施行規則等改正の主旨を受け、同校では、自ら課題を設定し、解決に向けて協働的に取り組んでいく探究的な学習を学習の中心に据え、「総合的な探究の時間」や各教科・科目で探究的な学習の充実を図られるよう、教育課程を再編します。

*普通科改革：高校生の学習意欲を喚起し、可能性・能力を最大限に伸長するための高校の特色化・魅力化や、探究的な学習の時間を軸に教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成をはかるもの

- また、今年度から同校が ICT を活用した文理横断的・探究的な学びを強化する高校として、文部科学省「DX ハイスクール」（高等学校 DX 加速化推進事業）に指定されたことを受け、教科横断的な探究プログラムに取り組みます。
- これらの特色が、中学生等に分かりやすく伝わるよう、学科の名称を、これまでの「普通科」を「探究科」に、「国際文理科」を「国際探究科」にそれぞれ改編します。

2 概要

【現在】 2 学科（普通科、国際文理科）

学科		内容
普通科	普通科 5 学級	・共通教科を幅広く学習
専門学科	国際 文理科 2 学級	・専門教科「英語」「理数」を中心とした学習 ・独自の特色ある英語教育



【改編後】 2 学科（探究科、国際探究科）

学科		内容
普通科	探究科 5 学級	・共通教科を幅広く学習 ・探究的な学習の充実・発展
専門学科	国際 探究科 2 学級	・専門教科「英語」「理数」を中心とした学習 ・学校設定科目「データサイエンス」の新設 ・独自の特色ある英語教育 ・探究的な学習の充実・発展

3 探究科及び国際探究科の目標

- 両学科において、社会課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる人材を育成するため、「知的好奇心を持ち、知識を身につける力」、「情報を収集し、分析する力」、「物事を論理的に考える力」、「傾聴・発信・協働する力」を身に付けられるよう、学校独自の「探究プログラム」に取り組みます。

- ・また、国際探究科では、上記に加え、グローバルリーダーとなる人材を育成するため、国際的な視野や国際感覚、コミュニケーション能力を身に付けられるよう、国内外の社会課題の解決に向けた「探究プログラム」に取り組みます。

4 探究科及び国際探究科の特色ある学習活動

(1) 系統的な「探究プログラム」の構築（両科共通）

- ・「総合的な探究の時間」を現状の3単位から5単位に単位数を増やし、新設する「探究発展Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（計3単位）と合わせて8単位とすることで探究学習に必要な時間数を1年次から3年次まで確保し、探究に必要なスキルの理解から成果発表に至るまで、探究のスキルを段階的に高めていく「探究プログラム」を構築します。
- ・学年の枠を越え編成したグループにおいて、上級生が下級生をリードしながらミニ探究や中間発表会および相互評価を行い、生徒が主体的・協働的に探究活動に取り組みます。

(2) 大学等の専門機関との連携（両科共通）

- ・三重大学等や行政機関等と連携し、有識者を講師として招聘したり、個々の探究課題に応じたフィールドワーク等を実施したりすることで、より専門性の高い探究活動に取り組みます。

(3) デジタル技術の活用（両科共通）

- ・国のDXハイスクール事業を活用し、生徒が自由に使える高機能パソコンや大型モニター等のデジタル機器を配置した「探究ラボルーム」を整備し、生徒の探究活動や、各教科・科目における探究的な学習の充実を図ります。

(4) 国際探究科での取組

- ・これまでの専門教科「理数」での学びに加え、学校設定科目「データサイエンス」を新設し、統計学の手法を取り入れ、データを利活用しながら実社会における課題解決に取り組みます。
- ・少人数制の英語プレゼンテーションスピーチ、若手外国人研究者等の各界の第一人者による英語特別講義など、これまで時代をリードしてきた本校独自の特色ある英語教育プログラムをさらに充実・発展させます。
- ・海外大学において英語で講義を受け、英語でプレゼンテーションを行ったり、海外の日本企業を訪問したりする「海外スタディツアー」を実施します。

【参考】川越高校の概要

- ・昭和61年開校以来、「英語科」を中心に英語教育や国際教育に取り組んでいます。
- ・平成24年、理数系に興味ある生徒にも対応できるよう、「英語科」を「国際文理科」に改編し、理数系科目の開設や海外スタディツアー等特色ある学習活動に取り組んでいます。